


哲学の若手支援：
社会的インパクト
に向けて

村上祐子
立教大学理学部



哲学と高等教育

高等教育：既存秩序の批判的検討・相対化を通して、自己理解を深める。

→結果として変化に対応する知識とスキルを身に着ける。

哲学の基礎スキル：

- 暗黙の前提の言語化
- 批判的検討

教育研究のトレンド

教育(teaching)から学習(learning)へ

蝸壺化とその反動

ICT：教育・学習環境、研究環境、学術情報流通・コミュニティ形成

研究者の挙動変化

高等教育における哲学系の理念

フンボルト教養主義の要石.

日本でも1970年代までは大学における教養重視

エリート層教育機関としての大学でも、企業でも。

東芝社員インタビュー（1987）：入社時に哲学書をたくさん読まされた。これからの若い人たちにも視野を広めるために教養を深めてほしい。

現在も根強い哲学ブーム

「君たちはどう生きるか」

非フンボルト高等教育機関

MITほか：哲学科での伝統的授業内容＋学際活動推進

教養ではない

プロジェクト研究としての学際活動：チームワーク

専門知識を持ち寄ることによる協働

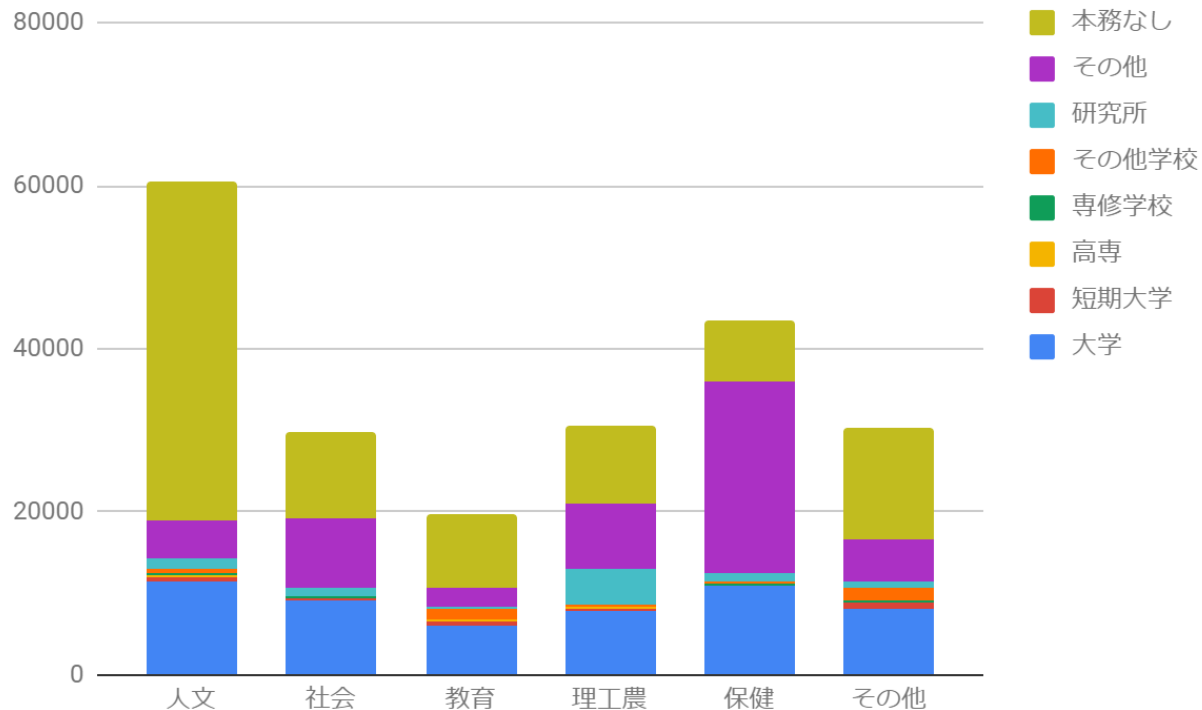
この方向性は今後あり得る。

人文社会系を取り巻く状況

- 大学数増加の反動：1988 490大学→2018 764（1992 大学大綱化）
 - 大学院重点化：大学院生増加（1995ころから就職）
 - 専業非常勤問題

- 人工知能の労働代替危惧→文理融合の動き
 - 事務職採用大幅削減
 - 対応策としての入試改革：私立文系学部入試に数学必須化

2016年学校教員統計：兼務教員



人文系研究者を取り巻く状況

国立

- 非常勤講師予算縮小

研究大学

- 改組
- 理工系を念頭に置いた業績評価
- 査読論文>>>>>>著書・翻訳

地方大学

- 合併圧力

私立大学

- 教育課程：伝統的人文系から学際へのシフトすすむ
 - データサイエンスとマーケティング
 - 人文情報学
 - 理工系におけるリベラルアーツ
- 実学シフト：実務家教員
 - 就職対策
 - 英語資格・留学経験強化：「英語ができるようになりたい」

中教審

2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿 ～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（2019年1月22日）

- 大学院：「知のプロフェッショナル」育成
- 学部：普遍的スキル・リテラシー
 - 論理性や批判的思考力
 - 広い視野
 - コミュニケーション能力
 - 他者と共生する力
 - 創造力
 - 変化への適応力
 - 主体性と責任感を備えた行動力
 - データ処理、活用能力

本来は人文社会系左記スキル・リテラシの訓練がなされている

哲学：論理性、批判的思考力

アピールすることは可能か？

誰が誰に向かってどうアピールするのか？

大学院修了者の活躍状況の把握・可視化

中教審2019

参考事例：Philosophical Gourmet (Leiter Report)

- 1996-current 英語圏哲学科情報 大学院進学希望者向け
- 哲学サブ分野ごとの大学ランキング
- 各大学院哲学科に就職状況公開を促す
- 大学院の選び方
- 教員異動情報
- 数年中に引退可能性がある教員リスト
- Wiley-Blackwellがスポンサー

進学先が学部時代の大学と異なることが前提。
(インブリーディング回避)

哲学系大学院生の進路

- 民間企業（修士修了中心）
- 教育職（大学）
 - 哲学
 - ライティングセンター
- 研究職（ポスドク）
 - 文系だけではなく理工系にも
- 研究支援職（URA）
 - 文書作成能力
- 教育職（初中等教育・生涯教育）
 - 哲学カフェ

多様化する進路に対応する
教育訓練内容とは？

大学・学会それぞれの支援策？

若手の支援

学会賞

学会からの助成金

成果発表

国際学会派遣

在外研究支援

教育スキル育成支援（プレFD）

参考事例：
京都大学プレFD 2009—

- オーバードクターによる公開授業→授業検討会
- 教育スキルが認められて就職していく。

<https://youtu.be/QoO9y46aSaM>

「業界研究」を含む。

哲学系学会誌

これまで：査読期間が長期にわたる&採択率低

成果発表支援：大学院生限定電子ジャーナル

- 日本哲学会「哲学の門」
- 科学基礎論学会・日本科学哲学会「新進研究者Research Notes」

危惧：

- 「ハゲタカジャーナル」とされる可能性
- キュレーション型剽窃を見破りにくい？

ワークショップ・ネットワーキング

助教ポストの減少、大学院充足率低下

- 学会参加のハードルが上がる
- 査読論文の仕組など、アカデミックライフスタイルのチュートリアルをする人がいない

懇親会形式変更：参加費縮減

- 学生割引
- アルコールなしのオプション
- 軽食のみ
- ランチへ

人文系の中でも女性がとりわけ少ない哲学系では育児支援は対象者が少なすぎた。

若手の自主的な試み

Skypeなどを利用したオンライン研究会

地方大学大学院生のハンデ軽減

分野横断的進捗報告会

パワハラ防止

大学単位・学会

規程策定

窓口整備

参考事例：

アメリカ哲学会：採用時の差別・パワハラ申立窓口

イギリス哲学会：グッド・プラクティス

さらなる支援に向けて

現在の想定より広い社会的インパクトをもたらす存在としての若手

分野全体・異分野連携による支援

採用単位に対応した対策

キャリア多様化支援

活動領域の拡大支援

ICTと哲学

研究活動・ライフスタイルの変化

原稿読み上げスタイル（リサイタル）vsプレゼンテーション

オンライン共同作業、共著論文作成

ビデオによる成果発表

SNS利用

実験哲学

ICTを哲学の考察対象とする

課題：新しいスタイル
の学術活動をどのよう
に評価するか。

新たな学術統合

- ICTと人間の可変性。
- 情報：言語概念の拡大
 - 人間可読情報（人間の感覚器で処理可能な信号：言語、映像、音声）
 - 機械可読情報（機械の入力装置・センサで入力可能かつ機械内部で処理可能）

哲学理論拡張の必要性：

自然人を前提としない理論、情報にかかる統合理論を構築すべき。